

事例



本人

【本人情報】

- ・20代 男性
- ・自閉スペクトラム症 (ASD) の診断を受けた。(就職後)
- ・高校時代からプログラミングを独学で学ぶ
- ・4年生大学を卒業しエンジニアとして企業に就職
- ・アットホームな企業を選択
- ・コミュニケーションの苦手さ
- ・集中しすぎて周囲の環境の変化や声かけに気づきにくくなる
「過集中」という特性がある
- ・「働かざる者、食うべからず」と極端な考え方をしている

初めての就職



- ・職員の団欒に参加できない
- ・話に入るタイミングが分からない
- ・仕事中に私語は禁止だと思っている
- ・「過集中」という特性を、同僚や上司が無視をしていると誤解し何度も指摘を受ける
- ・本人は真面目に仕事をしていただけでしたが、何度も指摘を受けたショックから気分の落ち込みが顕著にみられた。
⇒心療内科へ受診したところ、適応障害と自閉スペクトラム症（ASD）の傾向が強いといわれた。（半年後に確定診断を受ける）
- ・ASDであることを上司に相談できず、退職した。

自己理解と働く目的の具体化



本人

発達障害者
支援センター

【本人について】

- ・心療内科の医師から紹介され、当センターへ相談につながる。
- ・相談主訴はASDの特性への自己理解を深めたい
- ・企業に就職することがゴール設定

【きらりでの支援】

- ・自閉スペクトラム症の特性理解と自身の特性の整理
- ・過集中についての自己理解と対処法を紹介
- ・意見交換としてのコミュニケーションを紹介
- ・ゴール設定の変更 ⇒ 働く目的の明確化

①お金を稼ぐ、②居場所、③自己研鑽、④社会貢献(誰かの役に立つ)

⇒本人は、①・③・④・②の順番をつけた

就職活動に向けた連携によるアセスメントと支援

障害者職業センター
での面談



職業準備支援
(模擬作業)



【障害者職業センターでの支援】

- ・職業適性評価
- ・職業準備支援(3か月ほど模擬的就労を行いながら自分の発達障害特性が作業面でどのように現れるかを分析し、ナビゲーションブックという自分の取扱説明書を作成する)

【本人】

- ・自身の過集中やコミュニケーションの苦手さといった特性を理解してもらいたいと、障害者雇用を希望
- ・精神保健福祉手帳を取得
- ・職業準備支援を受け、自分の仕事量を管理してくれる方が必要、データ分析や入力等の力が非常に高い、マニュアルに沿って業務を遂行する能力が高いことを自己理解できた。
- ・適度な休憩をとることが苦手なため、休憩をスケジュール化する

就職活動

発達障害者雇用
トータルサポーター



本人

【ハローワークでの発達障害者雇用トータルサポーターによる支援】

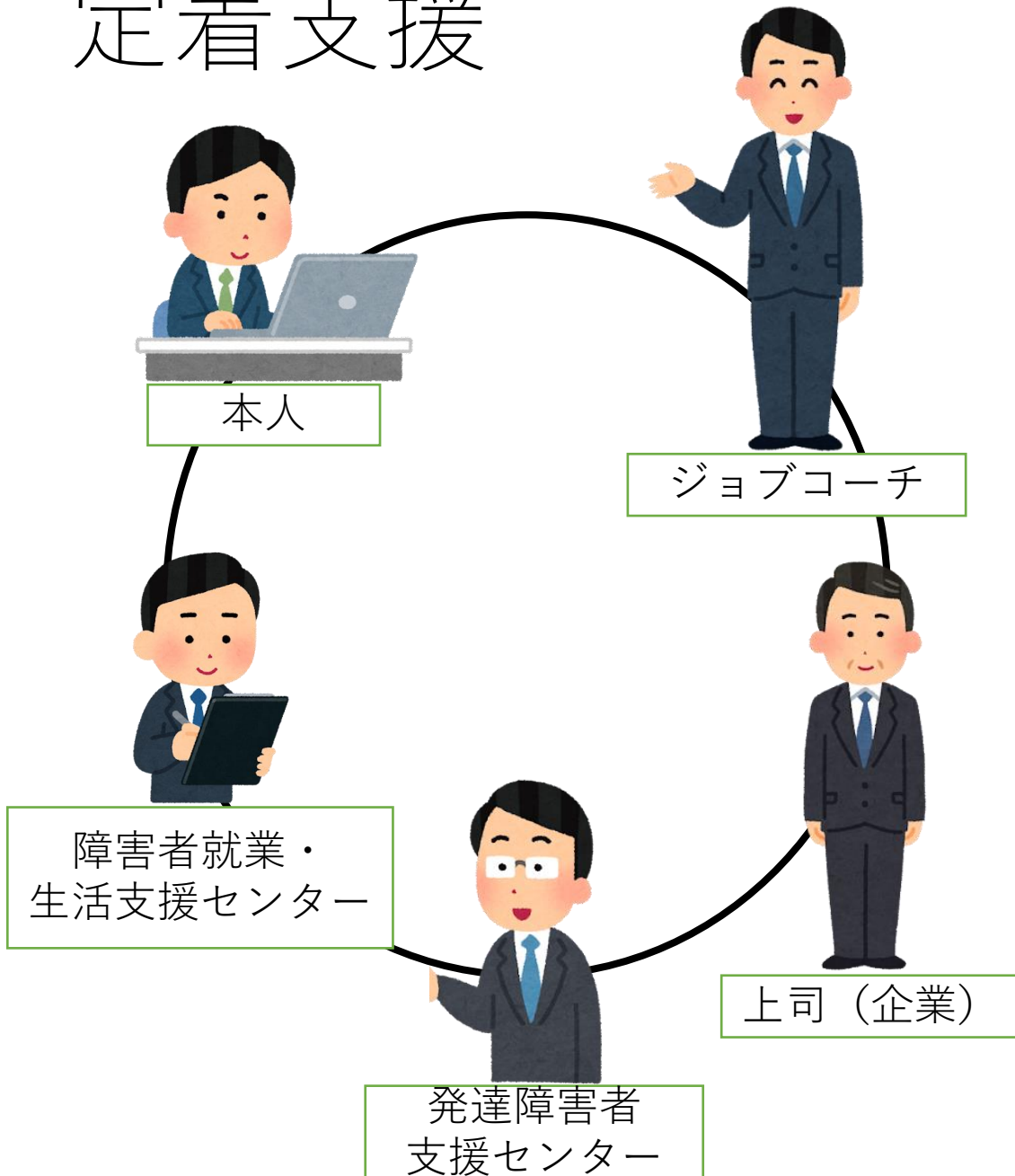
・発達障害者雇用トータルサポーターが本人と面談し、障害者職業センターで行った職業適性評価、職業準備支援の分析をもとに、障害者雇用の求人を選ぶ際の助言、見学等の手続きを行った。

- ・求人の紹介
- ・トライアル雇用を提案

【本人】

- ・トライアル雇用を利用 ⇒ 採用
- ・商品開発等を行う企業に就職（障害者雇用）
- ・製品や商品開発途中のデータを収集し分析する作業を担当

定着支援



【障害者職業センターでの支援】

- ・ジョブコーチ制度を利用（企業訪問し本人と企業の双方との面談を行う）
- ・最初は2週に1回程度で訪問し、3か月後からは月に1回程度の訪問。
- ・1年程度でジョブコーチ支援が終了した。（その後の支援を発達障害者支援センターと障害者就業・生活支援センターが引き継いだ）
- ・**本人も定着を支援するメンバーとして参加する。**

【本人】

- ・ジョブコーチ支援を受ける中で、休憩など気を休めることを忘れて働き続ける様子が確認された。⇒燃え尽きやすい傾向。
- ・データ分析の業務以外に、気分転換として軽作業の業務を行わせていただくこととした。
- ・急な予定変更は苦手なため、本人が仕入れ量から軽作業の業務が行えそうな日程を先読みするプログラムを自分で作成した。